

1. FUJI 2. TAKA 3. CHALLENGE



たかおか

発行：まちづくり協議会 編集：まちづくり新聞編集委員会 連絡先：まちづくりセンター (Tel.71-3215)

地域の課題は、地域で解決！

■□■□■□■まちづくり協議会が総会 本年度事業などを決定□■□■□■□

鷹岡地区の区長会をはじめ生涯学習推進会、福祉推進会などの各種団体が連携してのまちづくり推進機関である鷹岡地区まちづくり協議会の「令和5年度総会」が5月19日、まちづくりセンターで開かれ、本年度の予算・事業計画など5議案を承認しました。新型コロナウイルス禍で縮小していた活動を出来る限り再開する方針を示し、協議会の構成8部会の活動がフル稼働し、課題解決に向けた取り組みを一層加速させることを確認しました。以下、総会の状況をお伝えします。

総会には、協議会の構成団体の代表など50人余が出席。あいさつに立った遠藤 晃会長は、「令和5年度は、4月1日にさくら祭りを開催し、もう始まっている。天候に恵まれ桜も満開で、大勢の参加を得て盛大に開催できた。コロナに対する緩和が進み、通常の生活という考えで、色々な事業を展開しないといけない。この3年間のブランクの中で内容の見直しなどについても考えていかないといけない時期にきている」と語りました。その上でまちづくり協議会については「今、曲がり角に来ているのかなと思っている。社会情勢は非常に変化し、役員も高齢化しつつある中で、人材の担い手に苦慮している。これから地域の活性化を図っていくためには、しっかりと地盤づくりをしていかなければならないと思っている。色々な事業を展開する中で、皆様方にご理解と、そしてご参加をいただきたい」と呼び掛けました。

本年度事業では、さくら祭りに合わせて実施したフォトコンテスト写真展(5月18日～同31日)、「通学合宿」は宿泊を取止め子どもを対象にした代替事業(内容・期日未定、こども部会で検討)に見直すほか、市長との対話集会である「行政懇談会」(10月16日)、「まちづくり講演会」(期日、内容は今後検討)、地域活性化事業「潤井川左岸の清掃」(11月12日)などを順次開催していくことになっています。

新規事業として今年度、鷹岡地区が食育推進地区に指定されていることから市地域保健課食育推進室と連携した食育推進事業の実施、さらにまちづくり協議会と生涯学習推進会の在り方に関する情報交換会を行う予定となっています。まちづくり協議会全体事業のほか、構成する8部会(こども、安全、福祉、環境、体育、文化、防災、広報)では、総会后、各々会合を開き部会単位の事業に取り組んでいきます。



事業への協力を呼び掛ける遠藤会長

まちづくり協議会について、知っていますか？

まちづくり協議会は、本格的な人口減少や少子・高齢化が進む中、持続可能なまちづくり活動の構築を目的に行政指導により、それまでの交流的機能に留まっていた「まちづくり推進会議」が発展的に解散して、平成26年度に全市一斉(26地区)に誕生した組織です。部会制が設けられたことが最大の特徴で、構成する各団体の活動を尊重し、団体間の連携強化を図ったことが見直しのポイントです。平成28年11月に制定した「富士市地区まちづくり活動推進条例」によって位置づけられ、参画する団体・推進委員等の部会活動の調整を行い、**さまざまな分野における地域課題の解決に向けて、活発な活動を促進していくなど、多くの役割を行っていくことが求められている団体です。**

令和4年度、市は地区まちづくりセンターに指定管理者制度を導入。現在、2地区(松野・須津)において、まちづくり協議会が指定管理者に指定され、センターの運営・管理が行われています。

総会

<2023>

4月20日 福祉推進会総会

鷹岡地区福祉推進会の「令和5年度総会」が4月20日鷹岡まちづくりセンターで開かれ、本年度事業予算、役員体制を決定し、今年度も地域福祉の向上に会員一丸となって取り組むことを確認しました。総会での挨拶の中で佐野会長は、だれもが安心してともに暮らせるまちづくりのための、鷹岡地区の目標「ふれあい訪問で見える・つながる・つなげる関係づくり」を今後も今以上に実行していきます。具体的には、まず地域のふれあい・いきいきサロンの活動を応援、見守り。次に鷹岡地区地域包括支援センターの役割を理解し、民生児童委員と共に活用につなげましょう。そして子供や高齢者をはじめ地域住民同士の声掛けをしましょうと述べられました。



挨拶を述べる佐野会長

総会での決定事項は次の通りです。

- さくら祭りに協力（4月1日）
- 地区文化祭に協力（10月15日）
- ふれあい訪問（11月に4地区で）
- 地区安全大会に協力（11月5日）
- 鷹身まつりに協力（11月26日）
- 世代間交流まゆ玉づくり（1月12日）
- ふれあい・いきいきサロン交流会（1月25日）
- 見守り活動（随時・重点日 毎月5日）
- 地域ケア会議への参加（随時）

この他市主催福祉関連事業に参画協力。

※本年度の予算総額は58万7千円。

一方、支出では、ふれあい訪問経費に25万円など事業費が47万2千円、他諸経費を含め総計58万7千円を計上、承認されました。

※本年度の役員体制は次の通りです。

「敬称略」

- 【会 長】佐野康雄（元民生児童委員会長）
- 【副会長】井出たまみ（民生児童委員）
- 【企画委員長】川田和豊（厚原西区）
- 【会 計】赤池芳（入山瀬天王町）
- 【監 事】稲葉育正（久沢西 区長）
- 植松おみえ（民生児童委員）



挨拶を述べる渡邊会長

「令和5年度総会」が4月25日まちづくりセンターで開かれ、本年度事業予算、役員体制が決まりました。総会であいさつに立った渡邊敏会長はコロナ禍の3年間で事業活動の中止、縮小で会員同士の交流が希薄となり、生涯学習推進会の体力は弱まってしまいました。社会課題は行政と地域の隙間に生じるといわれます。その隙間を人と人とのつながりで埋めていくのが地区活動だと認識しています。本日の総会を皮切りに、弱まった体力、失われた地区活動を取り戻す第一歩にしたいと力強く述べられました。

本年度も、本部と総務、成人教育、青少年育成、安全教育、体育保健、の各部がそれぞれ目標を定めた上で事業を計画しました。

イベント関係では「第52回地区文化祭」を10月の2日間、「第3回ウォークラリー」を11月に開催。各部が連携を密にして行くことを確認しました。

このほか、7月に保護司会鷹岡支部と協調しての「朗読と講演のタベ」を、12月に「クリスマスミュージカル」を、さらに県下一斉補導に呼応してのパトロールを7月と12月に実施することを決定しました。

健全で明るい人間関係と体力づくりを推奨するため、各種スポーツ大会の開催や、大会への参加促進を図るためのスポーツ教室も開くことになっています。

本年度の予算総額は323万5555円、役員体制は次の通り。※副会長などのカッコ内は担当部、支部長のカッコ内は担当区です。

「敬称略」

- 【会 長】 渡邊敏
- 【副会長】 佐野周司（体育保健部）、後藤敏巳（青少年育成部）、戸田照栄（総務部）、赤池正興（会長付）
- 【支部長】 渡辺敏彦（厚原西）、太田敏章（久沢東）、山崎哲男（久沢西）、小林伸年（久沢南）、村松辰信（久沢北）、若月義憲（鷹岡本町1）、望月武彦（鷹岡本町2）、西村誠（鷹岡本町3）、稲葉敏浩（入山瀬東）、渡邊享（入山瀬西）、道越義朗（入山瀬天王町）、佐野正樹（入山瀬久保）
- 【監事】 浅野保司（久沢南）、横溝秀明（鷹岡本町2）
- 【会計】 赤池正興（厚原西）、後藤敏巳（入山瀬西）
- 【部長】 戸田照栄（総務部）、鈴木治男（成人教育部）、村松由美子（青少年育成部）、高塚資雄（安全教育部）、渡辺栄志（体育保健部）

生涯学習推進会総会において、永年この会に貢献された、中村進さん（久沢西）、伊藤光春さん（久沢西）、和泉進さん（入山瀬東）に感謝状が贈呈されました。



右から中村さん、伊藤さん、渡邊会長、和泉さん



コミュニティ・スクールとは・・・

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のこと、学校・地域・保護者が一体となって子供たちのためにより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組みです。

コミュニティ・スクールは、学校が中心となり、学校教育に関わりのない家庭や世代も巻き込み、地域住民みんなが学校に集まっていたような「昔懐かしい学校」を目指します。

学校運営協議会とは・・・

学校運営協議会は、教育委員会によって設置され、地域の实情に合わせて委員が選出されます。会議では、学校運営への必要な支援や、学校・保護者・地域が協働して取り組む実践的な活動、子供たちへの必要な支援についての協議が行われます。

学校運営協議会の3つの役割・・・

1つ目は、校長が作成する学校運営の基本方針を理解し承認することです。運営方針には、学校教育目標や年間の予定をまとめた教育課程などがあります。

2つ目は、学校運営に関する意見を校長または教育委員会に述べる事です。

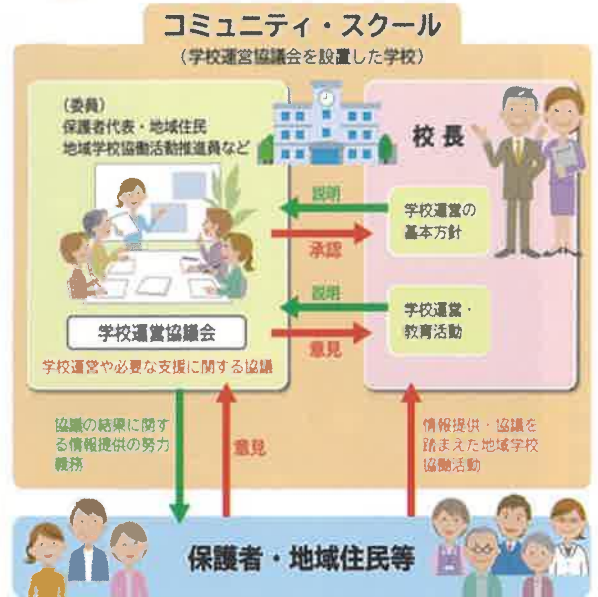
3つ目は、教職員の任用に対して教育委員会に意見をすることです。これは、個人的な処分や勤務条件の決定に関するものではありません。例として「〇〇の資格を持った先生に来て欲しい」といった意見です。

富士市のコミュニティ・スクールは・・・

平成27年度に市内公立小中学校でコミュニティ・スクールの指定が始まってから、令和4年度には市内全ての小学校と2校の中学校、令和5年度には7校の中学校、令和6年度には全ての公立小中学校においてコミュニティ・スクールの指定を目指しています。鷹岡小学校は令和元年度、天間小学校は令和2年度、鷹岡中学校は令和5年度にコミュニティ・スクールに指定されています。

コミュニティ・スクールディレクター(CSディレクター)

コミュニティ・スクールの指定を受けた学校には、CSディレクターが配置されます。学校運営協議会の開催に関わる業務、学校運営上や地域課題の整理業務、学校及び地域の相互交流支援、地域人材の把握・支援、関係機関との連絡調整、授業や学校行事における児童・生徒の支援などの業務を担います。鷹岡中学校、鷹岡小学校、天間小学校にそれぞれCSディレクターが勤務し、学校と地域、人と人を結んでいます♪





鷹岡地区防災かわら版

保存版

過去の地震では、建物は無事でも家具や家電などの下敷きになり、亡くなったり、ケガをしたりした人が大勢おられます。

自宅の家具の固定はお済みですか？の巻

平成21年8月11日駿河湾地震



阪神・淡路大地震では6,434人もの尊い人命が失われました。その8割以上が家屋倒壊・家具転倒等による圧死・窒息死でした。また、ケガをした人の原因の第1位は家具の転倒によるものでした。

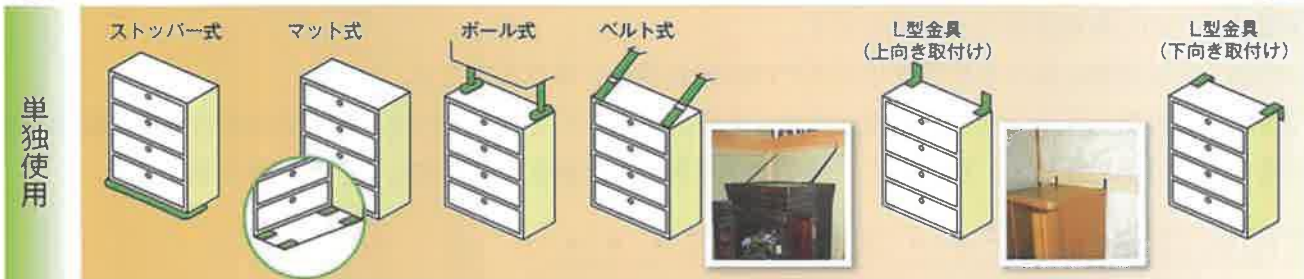
寝ている時に地震が来たら？

揺れ始めてから逃げる時間はないと考えましょう！

小

器具の効果

大



単独使用

組み合わせて使用

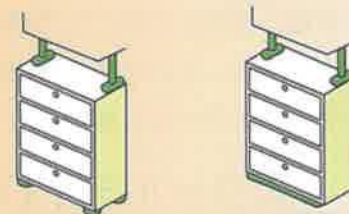
賃貸住宅等で壁に穴を開けられない場合、複数の転倒防止策を組み合わせ、耐震効果を上げる必要があります。

【実験概要】

- 食器棚 [H1800mm、自重65kg、収納物50kg]
 - フローリング・床
 - 震度6強の阪神・淡路大震災時の地震波を使用
- (家具類の転倒・落下防止対策に関する調査研究会／東京消防庁)

ボール式+マット式

ボール式+ストッパー式



富士市家具固定推進事業

このような被害を防ぐため、富士市では、**高齢者や障害者等の世帯**を対象に、家具等の固定事業を実施しています。詳しくは、富士市防災危機管理課まで。 電話 55-2715

社会を明るくする運動&青少年の非行・被害防止強調月間

朗読と講演の夕べ

7月は法務省が主唱する第73回社会を明るくする運動と内閣府が主唱する令和5年度青少年の非行・被害防止強調月間でした。鷹岡地区では、保護司会や更生保護女性会、生涯学習推進会などがスクラムを組み、区長会やまちづくり協議会などのバックアップも受けて、その記念事業とする『朗読と講演の夕べ』が13日夜、鷹岡まちづくりセンターを会場に開かれました。



会場は満席でした。更女による朗読です

保護司会など推進機関がスクラムを組んで開催

会場は、推進機関の取り組みが実る形で、ほぼ満席の80人余りで埋まり、メインの講演の講師が鷹岡中学校の前原一徳校長だったことから鷹岡中PTA関係者も目立ちました。

朗読は、少年院や刑務所の慰問活動などに取り組んでいる更生保護女性会が担当。8人のメンバーが奈良少年刑務所で更生の道を歩む少年少女が書いた8編の作品を感情移入もたっぴりに朗読。その1編、『おかあさん』と題した詩は、一度も見たことのない母親への思いを綴った作品で、末尾の「一度でいいから僕の名前を呼んでよ。そしたら僕から伝えたいことがあるんだ。“産んでくれて、ありがとう”では、会場には静かな感動が波打ちました。この後、生涯学習推進会青少年育成部の後藤敏巳さんが青少年の非行防止活動を報告しました。

メインの講演会の講師を担った前原校長は、『これから必要な力』と題し、趣味とする「修理・復元（レストア）」の紹介をプロローグとして本題に入り、ICT社会の進展など社会変化に応じた教育実践状況を紹介。鷹岡中学校の学校教育目標には『自ら学び 高め合う』を掲げていることを伝えながら、AI時代を真正面から受け止め、人間的成長に結び付ける教育実践への意欲を語りました。



生涯学習推進会青少年育成部による活動報告（上）、前原校長による講演（下）

スローガンは、「安全をつなげて広げて 事故ゼロへ」

夏の交通安全運動

今年も「夏の全国交通安全運動」が7月11日から同20日までを期間として繰り広げられ、富士市では初日11日に市庁舎北側広場をメイン会場に地区単位で運動のスタートを告げる街頭啓発が行われ、鷹岡地区ではまちづくりセンター前交差点などで行われました。

街頭啓発には、運動の“主役”である交通安全指導員をはじめ生涯学習推進会など関係団体から多くの参加があり、交通安全の、のぼり旗を手に運動スタートを周知したほか、信号待ちのドライバーに交通安全ルールなどを記したウチワやメモ帳などの啓発グッズを手渡ししながら安全運転遵守への理解と協力を求め、さらに登校する児童・生徒には「おはよう」の声を掛けながら事故防止を呼び掛けました。

『令和5年版交通のあらまし』によれば、富士市内で令和4年（2022年）1年間に発生した人身事故件数は1,182件、死者は8人、負傷者は1,415人。10年前の平成25年（2013年）は、人身事故2,572件、死亡者7人、負傷者3,395人で、死者数こそ増減がありますが、事故件数と負傷者数は年を追うごとに確実に減少。10年前の平成25年（2013年）の人身事故件数を100とした場合、令和4年（2022年）は46、負傷者も42と半減しています。

この人身事故件数や負傷者数の減少傾向に対しては、「追突防止など車の安全装置が急激に普及しているから」との分析もありますが、最大要因は交通安全推進機関が一致団結しての地道な事故撲滅運動の成果です。よネ。



横断歩道は、しっかり手を上げて

町の話題

さくら祭り写真コンテスト

第一席の会長賞は鈴木政美さん

富士山と桜花のビューポイント、富士西公園で4月1日に開かれた「鷹岡地区さくら祭り」には写真コンテスト（以下、「写真コン」）が盛り込まれ、応募点数が88点を数える中、審査の結果、第一席のまちづくり協議会会長賞には鈴木政美さんの応募作品『幸せな家族の時間』が選ばれました。

審査は、プロ写真家の近藤正寛氏（山梨県南部町在住）に依頼。鈴木さんの会長賞受賞作品の審査評は、「満開の桜の下、ベンチに仲良く座り、スマホで家族を撮影。（見る側を）思わず笑顔にし、幸せにしてくれます」で、これに「文句なしのトップ賞です」を加えています。



入賞・入選作品 **👉 会長賞の鈴木さんの作品です** は、審査後の5月中旬から同下旬にかけセンター2階ロビーで展示されました。

会長賞に続く入賞・入選者は次の通りです。
（敬称略）

※優秀賞…保科登、後藤尚

※入選…佐野哲男、村瀬富男、小林一久、平井敏夫、高橋正雄、長嶋健、荻田長蔵



👉 センター2階ロビーで開かれた応募作品展です

ご協賛、ありがとうございました

今年の「鷹岡地区さくら祭り」には、地区内の多くの事業所などから協賛金の寄付をはじめ舞台設営への協力、さらに抽選会への景品提供、写真コンテストへの副賞などの提供がありました。

深い感謝の思いを込め、以下に事業所・店舗名を

掲載します。（順不同、敬称略）

・エリエールペーパー・王子エフテックス・ケーアイ工業・三和製紙・セブンイレブン入山瀬店・セブンイレブン天間店・タカキュー・東京堂・トーヨーカラー・ニチハ富士テック・松菱製紙・丸喜衣装店・悠豊・エブリィビッグデー北富士店・王子キノクロス・サウナ鷹の湯・静岡ホーチキ・天間特殊製紙・特殊東海エコロジー・西尾組・富士里和製紙・丸井製紙・丸富製紙・オオイカメラフジフォト

センターだより

情報発信！Instagram (Instagram)

鷹岡まちづくりセンターは、さまざまな地区内の情報を発信するためSNSの一つであるInstagramを開発しています。皆様の登録をお待ちしております。

【利用方法】

QRコードを読みこんで、フォローしてください！⇒



※ Instagramを、見るためには、アプリのダウンロードとアカウント登録が必要になります。

@TAKAOKA_MACHIKYO

編集後記

平成18年（2006年）に鷹岡地区生涯学習推進会会報『たかおか』が、当時の生涯学習推進会の若手役員が中心になって創刊号が発刊され、第3号から現顧問の海野さんの指導を受け、第4号から『鷹岡まちづくり新聞』に格上げし、年3回発行。第7号より現在のA4サイズ6頁仕立てとなり、さらに第35号からカラー印刷となりました。

記事の内容は主として各種団体の事業計画や、実績、4月号ではその年度の区長紹介、8月号は各種団体の総会報告など、12月号は市長行政懇談会報告など。定番の直撃インタビューは第6号から、キッズ版は第7号からの掲載となっています。

今号で第50号の発行。この間、多くの地区民の激励や投稿などご協力ご支援を頂きましたこと、感謝しお礼を申し上げます。

また、各種団体からも編集委員を派遣下さり、節目となる第50号の発行に至ることができました。

今後60号、70号に向けて一層充実した紙面の提供が出来るよう編集委員一同努めますが、委員の新陳代謝も必要です。引き続いてのご理解、ご協力をお願い致します。なお、創刊号から第50号までのバックナンバーはまちづくりセンターに保管してありますので、必要に応じてご活用ください。

（K・I）